

日台交流日録⁽²²⁾

〔平成20年10月13日～12月30日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

10・13 六十年ぶりの再会

日本時代、日本人の父と台湾人の母との間に生まれた日本在住の高田武士・忠男さん兄弟が、生まれ育った高雄を六十数年ぶりに訪れた。両親が早くに亡くなっていたため、台湾の親戚との連絡が途絶えていたが、高雄市の戸籍事務所の協力などにより、台北に住む従姉弟らを探し当て、再会となった。

10・17 台北で「台湾石見フェア」開催

島根県浜田市の官民でつくる台湾貿易石見実行委員会が、台北のショッピングセンター「微風広場」で「台湾石見フェア」を開催した。約二週間行われ、アジヤサバの水産加工食品の試食、写真展や神楽公演もする。

10・18 上伊那のナシ、台湾への出荷増

長野県上伊那郡で生産されるナシ「南水」が台湾で高い評価を受け、昨年の五倍近い約二七トンの出荷を予定している。台湾への出荷はこれまで鳥取の「二十世紀梨」が主流だったが、多品種へのニーズも増え、昨年から

出荷が始まった。

10・19 岡山市で新竹市の伝統産業フェア

岡山市と国際友好交流都市の提携を結ぶ、新竹市が伝統産業や特産品を紹介する「台湾・新竹市伝統産業フェアin岡山」を天満屋岡山店で行った。会場では、新竹特産のピーフン、ガラス工芸が展示即売された。

10・22 北陸観光情報紙を三十万部配布

北陸新聞は石川、富山の観光名所や温泉地、宿泊施設、土産物などの情報を盛り込んだ観光情報紙を台北市内で三十万部配布する。北陸への観光誘致につなげるのが目的。

10・24 インリンさんをうなぎ大使に任命

秋の土用丑の日を前に、タレントのインリン・オブ・ジョイトイさんが「台湾うなぎ親善大使」に任命された。会見でインリンさんは「ふっくら脂がのつていておいしく、安全！」と話し、陳添壽・農業委員会漁業署副署長は「台湾の養殖技術はもともと日本から導入したもので、四十年の歴史があり、厳しい管理のもと輸出している」と話すなど、安全性のアピールがなされた。

10・30 阪神、蕭一傑投手を一位指名

プロ野球の新人選手選択会議（ドラフト会

議）で、阪神タイガースは奈良産業大学の蕭一傑投手を一位指名した。台湾人初のドラフト一位指名選手。現在、阪神には林威助外野手がおり、二人目の台湾人選手となる。

11・1 前衛出版社、経営危機

台湾主体性意識を強く打ち出した書籍を多く出版する「前衛出版社」が、経営危機に陥っていることがわかった。在庫一掃セールを中山サッカー場で行う。同社は安倍晋三氏の『美しい国へ』、小林よしのり氏の『新ゴーマニズム宣言 台湾論』の翻訳出版を手がけるなど、日本の書籍ともゆかりがある。

11・4 馮代表、札幌事務所開設を検討

馮寄台・台北駐日経済文化代表処代表は、北海道新聞の取材に対し、領事館に相当する「札幌分処」の開設を検討していることを明らかにした。北海道を訪れる台湾人観光客の増加に伴い、事故や病気などのトラブルが増え、東京の職員が出張するケースも増えている。出先機関設置で対応の迅速化を狙う。また台湾からの観光客が年間二十八万人に対して、北海道から台湾への観光客は一万八千人にとどまっており、道民の台湾への観光誘致を図る目的もある。

11・5 「アンパンマン」が台湾で放映開始

台湾のテレビ局「MOMO親子台」が、テレビアニメ「それいけ! アンパンマン」の放映を開始した。日本で同アニメを放送する日本テレビ放送網と、台湾の有力アニメ関連企業「マイティー・メディア」が放映権などで合意したことによる。同社は「NARUTO」や「ケロロ軍曹」など、日本の人気アニメを数多く取り扱っている。

11・5 「トオサンの桜」中国語版刊行

日本時代、日本語による教育を受けた台湾の人たちの思いを綴った『トオサンの桜』の翻訳版が刊行された。著者の平野久美子氏は「民間に埋もれた歴史を掘り起こすのが私の使命」と話す。

11・8 張翊・名人、四冠達成

囲碁の張翊・名人が王座位を獲得し、日本囲碁界で史上四番目の四冠を達成した。張名人は二〇〇三年に本因坊戦で優勝し、二十三歳五ヵ月で日本囲碁界最年少の本因坊位に就いた実績を持つ。

11・9 高雄港駅、百年の歴史に幕

高雄駅から高雄港駅を結ぶ路線が廃止された。高雄港駅は日本時代に高雄駅として誕生

し、その後、現在の高雄駅ができ、高雄港駅と改称した。昔を懐かしむ老人や鉄道ファンの若者が押し掛けた。

11・15 八田與一技師の映画公開

台湾で日本時代当時、東洋一のダムと水路網を建設した八田與一技師のアニメ映画「パッテンライ!!」が全国に先駆けて金沢市内の映画館で公開された。同映画は北國新聞創刊百十五年を記念して製作された。

11・16 日台白熱、野球アジアシリーズ

日本、台湾、韓国、中国のプロ野球リーグの覇者が王座を争う「アジアシリーズ」の決勝戦が、東京ドームで行われた。日本代表の西武ライオンズが、台湾代表の統一ライオンズに二対〇で勝利し、優勝した。西武の渡辺監督は一九九三年から三年間、台湾で兼任コーチとしてプレーし、「台湾には思い入れがある。自分の（指導者としての）基礎をつくってくれた」と感慨深げだった。

11・20 山口県と南投県の交流深まる

山口県民で組織されたツアーがチャーター便で台湾へ、そして南投県政府を訪問。一行は、李朝卿・県長らから熱い歓迎を受けた。これまで山口県と台湾、南投県との間には、

宇部空港初のチャーター便で訪れたのが台湾からの観光客であったり、山口県の七十五のスーパーが南投県の農産物販売の機会を提供したりするなどの交流があった。両県は姉妹都市提携も視野に入れ、今後、さらに親交を深めていく旨を明らかにした。

11・29 秋田の竿灯、台湾人を魅了

南投県埔里鎮で行われたランタンフェスティバルで、秋田県から三百年あまりの歴史をもつ「竿灯」が披露された。空に聳える竿灯が見物客を魅了した。

11・29 台湾シネマコレクション、大阪開催

大阪・シネマート心斎橋で「台湾シネマコレクション2008」が開催された。同コレクションは八月から九月まで東京で開催されていた。

12・6 「第六回まつりイン台湾」開催

台湾観光客を日本に誘致しようと「第六回まつりイン台湾2008」舞のまつり」が台北の新光三越デパートで行われた。北は秋田、南は沖縄までの九団体が招待され、伝統舞踊を披露した。

12・6 外登証の国籍を中国から台湾へ

日本に居住する外国人は外国人登録証（外

登録)の携帯を義務付けられている。台湾人の外登録の国籍は中国となっており、それを台湾へ改正しようと本会、台湾研究フォーラム、メールマガジン「台湾の声」が新宿で街頭署名活動を始めた。

12・9 呉伯雄氏、势力的に政治活動展開

来日中の呉伯雄・国民党主席は外国特派員協会で記者会見を開き、尖閣諸島は台湾の領土としたうえで、「主権問題を棚上げし、共同資源開発や漁業権問題など協力できる」と述べた。会見後は日本の主要政党幹部、石原慎太郎・東京都知事などを表敬訪問した。

12・13 映画「雨が舞う」試写会

日本時代にゴルドラッシュで栄えた台湾北部の街・金瓜石を舞台にしたドキュメンタリー映画「雨が舞う―金瓜石残照」の試写会が東京・亀戸のカメリアホールで。林雅行監督は「『親日』といわれる台湾だが、実際には複雑な思いを抱いている。まだまだ知られていない金瓜石に興味を持ってもらえれば」と話す。一般公開は来年四月の予定。

12・17 日本時代の鉄道病院、取壊しの危機

台湾・彰化市にある日本時代に建てられた鉄道病院の取壊しをめぐる議論が起こつてい

る。一九三〇年に建てられた同病院は旅館業も兼ねており、当時台湾中部でもっとも高級なホテルといわれ、台湾新文学の父・頼和ら文人たちが好んで訪れた。戦後は台湾鉄道に接収され、一九八四年に廃院となった。建物

12・17 台北で天皇誕生日祝賀会

天皇誕生日祝賀会が、台北市の国賓大飯店で開催された。台湾では二十三日は休日ではないために前倒しとなった。李登輝・元総統をはじめ、欧鴻鍊・外交部長、許世楷・前駐日代表ら政財界の要人も多数出席し、昨年来く約七百名が参加した。

12・19 台湾歌壇、四十年をむかえる

日本時代、日本語による教育を受けた台湾の人たちを中心とした、和歌を愛好するつどい「台湾歌壇」(蔡焜燦代表)が創立四十周年を迎え、台北市内のホテルで祝賀大会が行われた。齊藤正樹・日本交流協会台北事務所代表、許文龍氏(元総統府資政、奇美電子創設者)、呉阿明氏(自由時報発行人)らがお

祝いに駆けつけ、会員・来賓合わせて約百名が集まった。記念和歌集が配られたほか、日本語で日本の唱歌が熱唱された。

12・25 少年野球大会、京都チームが優勝

第十一回諸羅山杯国際軟式少年野球大会の決勝戦が、台湾・嘉義市で行われた。日本の京都チームが屏東県の復興小学校チームに勝利し、優勝した。同大会は台湾国内で最大規模の少年野球の大会。香港、シンガポールからも参加があり、日本からは六チームが参加した。

12・30 国際広報の特別展

嘉義県民雄郷にある国家広報博物館で、台湾の国際広報史の特別展「聴、台湾之声」が開催。同博物館の前身は民族放送所。一九四〇年、南進する日本軍の活躍を放送し、また国民政府からの放送を台湾人が聞くのを防ぐために開設された。戦後は国民政府に接収され、中国大陸への呼びかけや、世界各国へ「自由中国」のアピールを行うといった数奇な運命をたどる。特殊な建築様式から歴史建築百選にも選ばれ、一九九九年に博物館となる。特別展は二〇〇九年五月三十一日まで。

【古市利雄】